

もみじ



県立広島病院 〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号

※県立広島病院の様々な情報をホームページに掲載しています。
県立広島病院で検索 (URL: <http://www.hph.pref.hiroshima.jp/>)



理念：県民の皆様に愛され信頼される病院をめざします

Contents

- 県病院のカイゼン活動
- 県病院の専門外来 (口唇裂・口蓋裂外来)
- 県病の星 (がん性疼痛看護認定看護師)
- 外科医の独り言 (不眠不休の救急車)
- 連携医院のご紹介 (藤東クリニック)
- 年末年始休診のお知らせ

連携医院のご紹介

今回は、産婦人科医として女性のライフサイクルを応援されている藤東クリニックの藤東淳也先生です。



藤東 淳也 院長

藤東クリニック

〒735-0029
広島市安芸郡府中町茂陰1-1-1
電話/082-284-2410
FAX/082-284-2411
院長/藤東 淳也
診療科目/産科・婦人科



○いつ開業されましたか。

35年前から父が府中町に開業しており、県病院の退職を機に、平成22年に弟と二人で現在の地に移転しました。分娩を扱っている産婦人科が減少し、府中町では私のクリニックだけになりました。地域にとっても産婦人科がなくなることは残念です。

○産婦人科医として大切にされていることは何ですか。

今の社会には女性の力が必要なので、安心してお子さんを産んでいただける環境にしたいです。また、多くの女性が仕事をされている中で30～50歳代の方に特有の体の不調が比較的良好あります。悩みの相談にのることで、楽になってもらえたり、女性の体の不調について会社の理解や社会的にも認知をしてもらいたいと思っています。

○開業医のやりがいは何ですか。

最初から最後までずっと患者さんを診療できる事です。まずは相談に乗り、次に治療して、それ以上の必要性があれば他の施設へ紹介します。女性のホームドクターとして、患者さんが困った時に来ていただくとやりがいを感じます。

○県病院にひと言お願いします。

成育医療センターも日本で2番目にできましたよね。県病院にいたので先生方の仕事への取り組み方は知っています。広島県の周産期医療への責任を果たしておられると感じています。しっかりした病院のバックアップがなければ出産は難しいので、非常に助かっていますし、安心して医療をすることが出来ます。



藤東クリニック外観

【取材後記】

外からクリニックが見える事をコンセプトに造られており、窓からの光に内部の緑の植物が生き生きとして開放的な空間で、明るく落ち着いた雰囲気です。また、ホームページも院長自らが作成され、患者目線の情報発信に取り組みされておられました。

県立広島病院からのお知らせ

緩和ケア 看護師研修 スキルアップ研修

- 開催日 平成28年1月28日(木)・29日(金)の2日間
時間 9:00～16:30
場所 新東棟2階 総合研修室
申込期間 平成27年12月15日(火)～平成28年1月5日(火) 必着
参加費 5,000円 (資料代)
対象 次の①②③④⑤のいずれかと、⑥の要件を満たす者
①平成12年度から平成15年度に広島県看護協会が実施した「緩和ケアナース育成研修」の終了者
②平成16年度から平成18年度に緩和ケア支援センターが実施した「緩和ケアナース育成研修(専門コース)」の修了者
③平成19年度から平成24年度の緩和ケア看護師研修(中級コース)の修了者
④平成25・26・27年度緩和ケア看護師研修(実践コース)の修了者
⑤緩和ケアに関する専門看護師、認定看護師
⑥全課程(2日間)をすべて出席できる者

問合せ先

広島県緩和ケア支援センター 緩和ケア支援室
TEL082-252-6262 (直通) 土日除く
※詳細は『広島がんネット』ホームページでご確認ください。
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/gan-net/>

年末年始 休診のお知らせ

年末年始の外来診療につきまして、次の通りとさせていただきます。皆様には大変ご不便をおかけしますが、よろしくお願い申し上げます。

2015 12月	28日(月)	平常通り
	29日(火)	休 診
	30日(水)	
2016 1月	31日(木)	※内科・小児科のみ8:30～17:00まで救急診療
	1日(金)	休 診
	2日(土)	
	3日(日)	
	4日(月)	平常通り

※選定療養費は不要です。

Total Quality Management とは組織全体で統一した、品質管理目標への取り組みを経営戦略へ適用し、改善を進めていくことです

当院は

TQMサークル活動によるカイゼンを実施しています!



最優秀賞のカイゼン活動
「産科の改善の物語」チーム
(西4病棟)

分娩室を効率
良くしたい...

物が多く
効率が悪い

カイゼン前の分娩室



広くなり作業
しやすくなった!



カイゼン後の分娩室

業務効率
UP!!

これからもカイゼン
していきます!



TQM発表大会

カイゼン活動の
発表の様子



要因の解析、対策の検討をする
「産科の改善の物語」チーム

医療の質や安全の向上、患者サービスの向上を図るため、病院全体でカイゼン活動に取り組んでいます。4月から12サークルによるTQMサークル活動を行い、10月15日に院内発表大会を開催しました。



県病院の専門外来



毎週水曜日 午後 (完全予約制)



歯科・口腔外科スタッフ

■口唇裂・口蓋裂とは

生まれつき上唇(うわくちびる)や歯茎・口蓋が割れている状態です。口唇だけでなく鼻の変形も伴うことがあります。歯の骨の土台が割れている場合は、歯並びが悪かったり、歯の数が少ないこともあります。

原因としては環境要因、染色体異常や遺伝要因などがありますが、原因不明が多いのが現状です。

■受診のめやす

生後できるだけ早い時期に受診して下さい。口唇裂は生後3ヶ月以後、体重5kg、口蓋裂は1歳～1歳2ヶ月を目安として手術を行っています。どちらも入院期間は10日前後になります。

■お悩みやご相談があれば受診して下さい。

当科では、口唇裂・口蓋裂のお子様が見ただけでなく、言葉や咬みあわせなどの機能面でも健全なお子様と変わりなく、健やかに成長されるように全力で取り組んでいます。

出生時から青年期にわたってお子様の成長に伴う諸問題について各々の専門性を生かして多岐にわたる治療をチームとして一貫して実施しています。

初めて受診される方だけでなく、他の病院で治療中の方や出生前診断(胎児診断)の段階でのご相談もお受けしますので、ご遠慮なく受診して下さい。



歯科・口腔外科 主任部長 桐山 健

□唇裂・□蓋裂による障害

- ①吸う力が弱く、ミルクを飲むのが難しい。
- ②うまく発音ができない。
- ③食べ物がかみにくい、飲み込めない。
- ④風邪を引きやすい。
中耳炎にかかり易い。
- ⑤上顎の発育が悪くなる。
- ⑥歯並びが悪い。受け口になる。
- ⑦見た目にコンプレックスを感じる。



外科医の独り言 no.51

ー 不眠不休の救急車 ー

ウンチの話と同様に救急車の話を始めるとキリがありません。県病院にも年間5,000～6,000台の救急車がやって来ます。広島市消防局のホームページによると昨年1年間で約56,000件の出動があり、年々救急車の出動件数が増えているそうです。そのため救急車の現場への到着時間が平均1分遅くなっているそうです。そして救急車を呼んだ人の46%、約半数は結果的に入院を必要としない軽症の患者さんだったそうです。交通手段がない、どここの病院に行ったらよいかわからない、救急車で早く診てもらえる、といった理由があるのかもしれませんが、なかにはタクシー代わりに救急車を利用される患者さんも居られるのかもしれませんが、救急車が到着したら患者さんが自宅の前で立って待っていた、という話も聞いたことがあります。そしてホームページにも「安易に救急車を呼ぶ人が増えると、生命に危険のある傷病者のところに救急車が到着するのが遅くなってしまいます」とお願いが書いてあります。確かにタクシー代わりに安易に救急車を呼ぶことは避けるべきだと思います。

しかし、医療の「素人」である患者さんが病気の軽症、重症を正確に判断できるでしょうか?ということ。約半数が軽症だった、入院の必要がなかったというのは、あくまで病院で検査、診察した結果です。最近、テレビや週刊誌で頻りに病気の事が報道されるようになり、中には「見逃してはいけない重大な兆候」といって様々な症状や兆候が紹介されています。したがって症状は軽そうだけどひょっとしたら重大な病気の前兆では?と心配になり救急車を呼ばれる患者さんもいると思います。そして広島市消防局のホームページには、このような時には救急車を呼びましょう、と詳しく解説してあります。例えば、けがや火傷の項目では、大量の出血を伴う外傷、広範囲のやけど、と書いてあります。

さて、大量の出血とはどのくらいの出血?広範囲

とはどこまでが広範囲?といった疑問が出てきます。はたまた、救急車を呼ぼうかどうかと迷っている時に消防局のホームページを見て決めようとする余裕があるでしょうか?中にはこの患者さん、なぜ救急車じゃなく自家用車で来たの?と逆にびっくりする重症の患者さんもいます。ご近所に体裁が悪いからという理由で無理して自家用車で来られたのでしょうか。そこで結論ですが、「迷った時は救急車を呼んでください」です。当院救命救急センター長の山野上先生もそのように言っておられ、お墨付きをもらいました。結果的に「軽症」であったとしても「なぜこんな軽症で救急車を呼んだのか?」と怒る救急隊員はいないと思いますし、県病院でも怒る医者はいないと思います。

30年前、私がある病院で当直していた時のことです。夜中の3時頃当直室で爆睡していると、夜勤の看護師さんから「救急車が入ります、でもなんか大したことないみたいですよ」との電話が入りました。そう言われても「大したことか大したことではないかは患者を診なければわからないか」と不機嫌に電話を切り急いで救急外来に降りました。救急外来に行ってみると運ばれてきた患者さんに「どうしたのですか?」と尋ねると、「眠れないんです」との答え。「???」一瞬わが耳を疑いました。何とその患者さんは「不眠」で救急車を呼ばれたようです。これはまさしくタクシー代わりです。タクシーで来られれば普通に診察して睡眠剤を処方したと思います。その時は私も相当頭にきたのか睡眠剤を処方したかどうか憶えていません。

しかしそのあと怒りで朝まで寝付かれなかったのは私です。



副院長(消化器・乳腺・移植外科主任部長)板本 敏行(いたもと としゆき)

県病の星 がん性疼痛看護認定看護師

現在日本では、がんになる確率は2人に1人とされています。がんになった時から「からだの苦痛」「病気や治療に対する不安」「仕事や経済的な心配」「今後の生活や生き方への気かりや悩み」など様々な『痛み』を伴うことが多いと思われます。私たちは、そんな『痛み』を少しでも和らげるために、患者さんや家族の方と一緒に、患者さんや家族の方が満足のゆく生活をおくるには、どのような方法が効果的かを考え、できるだけベストな状態になるように対応させていただき看護士として頑張っています。

通常は病棟で仕事をしていますが、平日は交代制で、がん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師、がん化学療法認定看護師、乳がん看護認定看護師などの仲間と一緒に、外来や病棟をまわりカウンセリングを実施しています。患者さんや家族の方で、困ったことや心配なことなどありましたら、ちょっとしたことでもかまいません。悩まず、いつでも気軽にご相談ください。お待ちしております。



定元・島田看護師

院内クリスマスコンサートのお知らせ

当院では、皆さんと一緒に楽しく、心温まるひとときを過ごさせていただきたいと考え、毎年、七夕とクリスマスに、プロテウスアンサンブルの方々に様々な趣向による素晴らしい演奏を御披露いただきます。患者さん以外の方も、是非お立ち寄りください。



昨年のクリスマスコンサートの様子

12月25日 金 15:00 ~ 中央棟1階中央ホール